

キャラクター名
神宮ノエル

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス サラマンダー		ワークス	UGN	エージェントC	カヴァー	シヨップ店員
	オプショナル		年齢	22歳		性別	♀
覚醒	忘却	衝動	妄想		初期侵食率	34 %	
出自	安定した家庭	経験	偽装家族		邂逅	慕情	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	2	0	0			2	行動値	8
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	8
精神	2	1	2	1		6	戦闘移動	13
社会	4	0	0			4	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	4		交渉		
回避			知覚			意志	2		調達	1	
運転:			芸術:			知識:	2		情報: UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
さよなら、良い夢を	RC	6r+4		15		コスト6。コネLv2+氷Lv5。範囲(選択)。
血の味を召し上げられ	RC	6r+4		15		コスト8。コネLv2+氷Lv5+流Lv2。範囲(選択)。
氷の檻でお眠り@100~(全)	RC	9r+4		21		コスト8。コネLv4+氷Lv7+流Lv4+Dロイス。範囲(選択)。1回/シナリオ。
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ：警察官	
コネ：UGN	
コネ：情報屋	
応急手当キット	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
患者の黄金	P 信頼	N 無関心		
青天目嵐	P 執着	N 疎外感		
宝条ウウキ	P 有為	N 憐憫		
昇華)重藤	P 連帯感	N 不快感		
昇華)ミズイロ	P 好奇心	N 憐憫		
昇華)アイシニング	P 執着	N 嫌悪		
春日恭二	P 同情	N 憐憫		

最大財産P: 10 残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：サラマンダー	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果： C値を-LV								
狂戦士	3	5	Xジャー	視界	単体	自動	80%	
効果： 対象が次に行うメジャーの判定のC値を-1、ダイス+[LV*2]個								
蒼き悪魔	4	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果： ガード時に使用。攻撃相手に[LV*3]点のダメージ。1回/R。								
氷の塔	5	4	Xジャー	視界	範囲(選択)	対決	-	
効果： 攻撃力：+[LV*3]の射撃攻撃。同エンゲージ不可。								
流血の孢子	2	2	Xジャー	視界	-	対決	-	
効果： 命中で邪毒。ランクはLV。								
絶対零度	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果： 暴走中【精神】を使用した判定ダイス+[LV+1]。レベルアップなし。								
快樂の香気	1	-	Xジャー	至近	I+I+I	自動	-	
効果： クール・ルージュはいい香りでしょう？								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「Under dogs」経験点下限60点、上限100点

私/貴方・貴女。丁寧口調で誰に対しても敬語を使う。

梅市支部所属のエージェント。
支店の表向きのお店である「クール・ルージュ」の店員を務めている。接客の腕はそれなりにある模様。
支部長である青天目嵐に対して(異常なほどの)執着を持っており、仕事がない時には常に彼を目で追いかけている。
支店の至る所に監視カメラを設置しているが、青天目のことしか映さないといい無駄な高性能さを誇っている。
しかしおそらくそのカメラの存在も位置も何もかもが支部長には筒抜けである。

元々はなんの変哲も無い青天目の後輩だったのだが、それがとある日急変する。
彼がとある事件を解決した際、ノエルもその場にいた。そして侵食率が上がりすぎていたため、ノエルは暴走していたのだ。
その結果、青天目の素顔及び衝動に一目惚れを起こし、以来彼に付きまとい続けている。
いつか彼が自分のことを殺して――看取ってくれると妄信している。

一般的な家庭に生まれ育つも、後にその家庭は偽りのものであったと知ることになる。
そのため、自身の出生について正しいことを知らないままである。
しかし「今」があるのなら「過去」などどうでもいいと切り捨て、「家族」をただの「思い出」として昇華している。
おそらく物心つく前に自身に埋め込まれたと思われる《賢者の石》の粉い物、《デミクリスタル》を秘匿するために、家族を偽装されていたのだらうとノエル自身は推測している。
しかし《デミクリスタル》を嫌悪することも、拒絶することもなく、むしろ受け入れ、信頼を置いている。
この力が自分自身の存在証明なのだ、そう信じている。